

アンコの話

今回は金蔵連のアンコについて紹介します。整備を考えている「神越溪谷」のマーク（ロゴマーク）を作るよう計画をしていますが、アンコを溪谷のシンボルにしてはどうかという意見があります。相談しながら決めていきたいと考えています。

1 アンコの生態

アンコの正式名はサンショウウオ（両生類）です。カエルの仲間ですから、卵と子ども時代は水の中にいます。子どもの時はえら（外えらといって、体の外にえらが出ている。ちなみに魚やオタマジャクシは内えら）で呼吸をし、肺ができると陸上生活を送ります。大人のアンコ（山アンコと呼んでいます。）は夜行性で、主にミミズや昆虫などを食べています。2月から4月の産卵時期になると、沢にもどり、やや硬い透明な袋に包まれたカプセル状の卵を岩の下などに産み付けます。卵は他の動物（アマゴなど）に捕られないよう、見つかりにくいところを選んで産みます。

アンコは金蔵連だけでなく、段戸山系一帯に棲んでいます。田ノ土里、阿蔵、伊勢神、大多賀などです。アンコ（幼生）を飲む風習はこれらの村には昔からあると聞きます。

2 アンコの種類

日本にいるサンショウウオは20種類ほどだと本にあります。オオサンショウウオ以外は小型で15センチ以内です。池などの流れのないところに棲むサンショウウオ（止水性）と流れのある沢に棲むサンショウウオ（流水性）があります。この一帯に棲むアンコは2種類で、どちらも流水性です。整理してみると下のようになります。

正式名	俗称	特徴
ヒダサンショウウオ	ハチロベ	沢の中で半年過ごし、陸に上がる。ずんぐりして足が細く、流れのゆるいところにいます。のろまなので馬鹿にした言い方なのでしょう。色は茶褐色、小さいものしか夏には見られない。
ハコネサンショウウオ	アンコ	沢の中で2～3年過ごす。足ががっちりして体はスマート。流れの速いところにもいます。色は茶褐色のまだら模様（東日本型）
	キアンコ	形など特徴は同じ。ただ色が違い、背中に黄色い線がある。数が少ないので、よく効くと言われていた。（西日本型）

3 その他

- ・ 捕まえ方は、サデという竹筒の先を割ってかご状に編んだものですくう。さらしの布袋にしたものを沢の水落にしかけ、次の日に捕る。
- ・ 一般的には、生きたまま飲む。目刺し状に串に刺し、天日で干したものを富山の薬屋が買っていったと聞いている。他の地方では、黒焼きにしたものを食べたりしていた。

◇ 第4回もみじ谷整備作業を9月16日(木) 8:00~11:30を実施

- ・ 内藤金三碑に集合し、その下の道下の杉桧を伐採し、川の見通しをよくしました。少し太い木もありましたので、倒すのに難儀をしましたが、みんなの協力で何とか倒せました。内藤剛さん所有の林です。ご理解とご協力に感謝します。(きれいに保つ義務があります。)
- ・ 今年は、きれいに一部をしたためか、この付近の川に入る人が多く、バーベキューの残滓や使った紙のコップや皿を道路や川に残していく不心得のグループもありました。きれいにすればよけいに汚れるという矛盾も感じます。来期の夏までには、この問題に対してどう対処するのか真剣に考えなければと思います。原則的には、火を使った料理関係は禁止の方向でいくことはできないかと思えます。
- ・ 松本さんに新兵器を考案してもらいました。道下の木の枝や刈った草を一段下に落とすための武器です。次回使ってみようと思います。
- ・ 参加者は、矢澤区長、松本、堀込、小木曾舎、宮条多美子、水野一、藤澤の7名でした。ありがとうございました。皆さん張り切って作業をしていただきました。
- ・ 地域会議のメンバーが視察にみえました。応援していただけるようお願いしました。

◇ 次回作業日 9月16日(木) 9:00~11:30

- ・ 集合場所 内藤金三碑周辺
- ・ 作業内容 「道庵坊主の滝」から上流の道下の刈り払いと枝の片づけ(下刈り機など)
金三碑下の林の間伐
- ・ ご協力をお願い 道庵坊主付近の整備は後、3日間となりました。ご協力を願います。
- ・ 最後の10月9日(土)、10日(日)は、看板付け、十二釜橋下の刈り払い等を計画しています。都合をつけて参加下さるようお願いいたします。

◇ 9月5日(日)環境部会のメンバーが、もみじ谷を見学にきていただきました。地域づくりのメンバーも参加をしていただきました。我々の取り組みもうとしているところを理解いただいたものと思います。特に強調したのは、「植えない環境づくり」です。そこにあるものを大事にし、よいものをクローズアップしていく今の取り組みを紹介しました。近藤康次部長さんの熱心なお取り組みに感謝します。